

山行報告

◆兵庫労山 40周年記念氷ノ山集中登山

粟鹿山&氷ノ山山行

日 時：5月27日（土）～5月28日（日）

参加者：リーダー 今山 他 11名

行動記録

場 所		着時刻	発時刻	
JR加古川北口	☁		7:30	
市川SE	☁	9:05		トイレ
山東町少年の家	☀	9:10	9:30	
粟鹿山	☁	11:35	12:00	弁当
山東町少年の家	☂	14:10	14:20	
福定、満月民宿	☁	15:10		
福定、満月民宿	☀		7:50	
氷ノ山国際スキー場	☀	8:30	8:45	
キャンプ場	☀	9:15	9:30	
東尾根登山口	☀	10:12		
神大ヒュッテ	ガス	10:50	11:30	弁当
氷ノ山須賀ノ山	ガス	12:13	12:34	
避難小屋	☁	14:40	14:45	
福定、満月民宿	☀	15:30	16:05	
JR加古川南口	☀	18:00		

【兵庫労山40周年記念集会および氷ノ山集中登山に参加して】 西口(順)

（１）近くて遠い仲間から近くて近い仲間
に：

2006・5・27（土）播磨地区として、全但バス1台を貸切り、加古川駅北口ロータリーを午前7時30に出発。乗車メンバーは「明石労山」11名「高御位山遊会」12名「HCはりま」11名の合計34名。

今回の幹事である明石労山の会長の意向を踏まえ記念式典に出席する前に播磨地区の仲間の親睦と交流を深めるため、朝来市山東町にある粟鹿山（あわがやま）962mに交流登山をすることになっている。バスは一路、姫路バイパス、播但連絡道、和田山インターから国道312号線を経て自然の家に向かう。道中、車内では日頃接触のない仲間であったが、時間が経つうちにうちとけて和気あいあいの仲になった。そうこうしているうちに9:00頃西宮市立山東自然の家に到着。登山に必要なものだけを持ち、その他の持ち物はバスに留置。目の前に当勝神社がありその近くの広場で、明石労山のリーダーのもと準備体操で体をほぐし9:30に出発。しばらく舗装道路を歩いて行くと登山口の案内掲示板が見え

てくる。ここからが登山道の入り口（9:34）、ヒノキとスギの植林の下に続く道は歩きやすく、明瞭で迷う必要はない。30分ほど登るとヒノキ林を抜け、ぱっと頭上が明るくなり、小さな岩の上に立つと樹海の向こうに和田山の展望が開ける。途中、獣除けの扉を開け前進すると谷川に出くわす。今日は天気予報では雨とのことだったが、幸い晴れてくれた。この辺りから傾斜を増してくるとともに、植生にも変化が現れる。ヤマザクラの大木、コガクウツギ、タニウツギの花が群生し、谷川の音、鳥（ホトトギス）のさえずり、ここちよい風が吹き気分が爽快になってくる。途中、砂防ダムの工事をしており自然破壊がされている姿を見ると心が痛む。左手に赤松林を眺めると稜線は近い。

白いガードレールの間を抜けると自動車道に飛び出す。脇に展望台ここから頂上まで2 Km舗装道路を歩き山頂（962m）に11：35たどり着く。頂上からは八方視界が開ける。但馬・丹波・播州の山波が見渡せる山頂で仲間たちと記念写真を撮り昼食、来た道を下り、下山口近くにある雌、雄滝を見に行くが、ここも砂防ダムの影響で景観悪し。15時前にバスに戻る。昼食、休憩を挟んで往復4時間30分のコース、登りやすく、脚にやさしい山と云う印象が残る。



（2）歳を重ねただけで人は老いない、理想を失う時に老いがくる。:

山東少年自然の家を14時20分ごろ出発。国道312号、9号、県道87号で、今夜の宿泊地養父市奈良尾の民宿「満月」へ向かう。15：10過ぎに無事民宿前に到着、早速、部屋に荷物を置き一服、入浴後、記念式典の会場である「熊次小学校体育館」に向かう。会場は大勢の人であふれ返っており、熱気がムンムンと漂っていた。これからどのような式典、祝賀会が始まろうとしているのか楽しみである。いよいよ18：00に式典が始まった。

今回は40周年と云う節目の年でもあり県下各地から36の山の会、360人程度が参加した。会場の壁面には各会の旗が張り巡らされた。I部の記念式典では式次第通り進行、江川英雄実行委員長の司会のもと大学名誉会長の挨拶と過去の遭難で犠牲になった人たちへの黙祷がささげられ、続いて玉井会長、来賓の挨拶、感謝状贈呈と続き終了。

ここで私が感じたことは今回の式典の場所が何故「氷ノ山」なのかと云うことである。それは以下の理由からと云うことに気付いた。

- ①自然保護の立場から・・・氷ノ山登山道の改修に伴う自然破壊（植生を乱したり、希少種の鳥の絶滅）の現状を見たり聞いたりすること。
- ②平成4年4月の雪崩による遭難事故を思い起こし、事故の再発防止に努めること。
- ③県下で一番高い山

II部の祝賀会（懇親会・交流会）は喜多理事長の司会のもと行われた。飲食をしながらの歓談、各会の紹介を行った後、圧巻だったのはアトラクションでの高御位山遊会の舩賀氏の「詩吟」であった。これにより兵庫労山に高御位山遊会ありを位置づけアピールする上でこれ以上のものはなかった。そして終了間際、今回の参加者全員が立ち上がり肩を組み山の歌を歌った時は山を愛する仲間たちの団結と年齢を忘れた青春の一こまであった。有難う仲間達、また会おう仲間達。冒頭の言葉はサミュエル・ウルマンの「青春の詩」の一節である。新しいものに挑戦しようとする気持ち、意欲を持ち続けている限りその人にとっては青春なのである。それが登山であっても。



（3）輪を広げよう、仲間と愛と団結を・・・母なる山、氷ノ山集中登山:

5月28日（日）午前6時ごろ目が覚める。外にでてみると前夜の雨は止んでいるが空はどんよりしている。氷ノ山の頂上はガスがかかって厚い雲に覆われており、山頂は雨が降っているように思われた。朝食をすませ、山に登る必要最小限の荷物を整理し、それ以外は民宿に置いておくことにした。「明石労山」と「HCはりま」は福定親水公園（登山口）から山頂をめざすコースで出発、我々「高御位山遊会」は東尾根から山頂をめざすコースをとり

AM7:50に民宿「満月」を出発。その頃になると天気も晴れてきだした。国際スキー場下の東尾根登山道から入る。左に谷川を見ながら農道を登っていく。周囲は新緑につつまれ花・鳥のさえずりを聞きながら所々にすでに田植えが終わっている棚田を見ながら歩く。しばらく行くと休憩小屋が見えてきた。ここは氷ノ山奈良尾キャンプ場、この先に登山道の入り口がありここでしばらく休憩、山頂を見ると所々の谷に白いもの（雪）が見える。いよいよここから山頂に向かって登り始める。途中から急なぼり坂斜面の木製階段が続く、前夜の雨で道がぬかるんでおり足下が不安定。30分ぐらいのぼると前方に東尾根避難小屋が見えてくる。ここから階段もなくなり通常の登山道、尾根づたいに歩く東尾根コースと呼ばれているところ、しかし急坂もあるので注意しながらのぼる。途中、ウグイスの鳴き声、ベニドウザンツツジの群生がありユキザサ、イワカガミと花が見ごろ、またブナ混じりの広大な落葉広葉樹林もそそりたつ。のぼること1時間少し、神大ヒュッテにたどりつく。

(10:50) この時間帯になると登ってくるグループ、くだってきているグループと出くわす。情報によると山頂は強風で今にも雨が降り出しそうとのことで、頂上での記念集会は中止、早急に降りてくださいとのこと、そこで当会としてはここで昼食休憩し、せっかく来たのであるから頂上にのぼって当初の予定通りのコースで下山しようと決める。11:45迄休憩しその間食事とスズコ（竹の子）採りをする。休憩後頂上を目指す。千本杉を過ぎた左手に天然記念物の古生沼を見て山頂(1510m)に到達する(12:13)。

山頂は一等三角点の標石と避難小屋が建ち展望は360度見わたせる。ここで明石労山、HCはりまの仲間と合流、記念写真をとって別れる。木製階段をくだっていく道はぬかるんで泥だらけ、油断をすると滑りかねない。下から中学生の集団が先生につきそわれ頂上を目指してのぼってくる。聞くと加古川の中部中学校の1年生、みな泥だらけになりながら元気欲のぼっていく、コシキ岩を過ぎ左手には仙谷コースに道が続く、ブナの巨木が立ち並ぶ稜線上の道を緩やかにくだり北に向かう。しばらく下ると峠の



石仏と避難小屋が見えてくる。ここが氷ノ山越、鳥取県との県境、鳥取方面に若桜と書かれていた。休憩後ぬかるんだくだり坂を下り始める、このあたりがアズキコロガシの尾根だろうか約1時間30分歩いて行くと地藏堂が見えてくる。雑木林を下っていくとナラ、クヌギ、カエデなどが木陰をつくる急な坂をつづら折にくだりが続く、谷川の水の音が聞こえてくる。右下に不動滝、左に布滝が目に見え込んでくる落差10mあるだろう。天候は何とかもってくれた。やっと登山口の入り口までたどり着いたそこはトイレなどが整備された広場である。



時間は15時を過ぎていた。ここから林道を直進、舗装道路に出て民宿まで至るのにけっこう時間がかかった。民宿前についたときには明石労山、HCはりまの仲間はすでに到着してバスのまえで待機されていた。我々は民宿で暖かいぜんざいをよばれた。何と美味しかったこと、荷物の整理をしてバスに乗り込み16:30一路加古川に向かって出発した。

私は今回初めて泊山行に参加した。何もかも吹っ切れ、この地にきてよかった。氷ノ山に登れてよかったと実感した。

山よサヨナラごきげんよろしゅ、またくるときにも笑っておくれ。！！

◆伊吹山 北尾根縦走（バス利用）

日 時：6月4日（日）

参加者：L 砂川（延） 他16名



伊吹山山行記録：山口好子

交 通	鹿島神社P ～ JR加古川駅 ～ 西宮名塩SA ～ 多賀SA ～ 伊吹山DW入り口 ～ 頂上P					
時 刻	7:00発 着	7:15	7:57～8:10	9:25～9:35	10:00	10:35
山行コース	頂上P ～ 伊吹山頂(昼食) ～ 頂上P(トイレ) ～ 静馬ヶ原 ～ 燕平 ～ 休憩 ～					
時 刻	10:50発 8	11:20～12:07	12:25～12:30	12:45	12:52	13:23～13:28
山行コース	～ 御座峰(1070m) ～ 禿山(1083m) ～ 国見岳(1125m) ～ 国見峠P					
時 刻	14:10～14:20	14:50～14:55	15:30～15:40	16:20着		
交 通	国見峠P ～ コンビニ(ビールetc) ～ 名神関ヶ原IC ～ 西宮名塩SA ～ JR加古川駅 ～ 鹿島神社P					
時 刻	16:25発 着	17:00～17:07	17:50	19:40～19:52	20:15	20:30

【山行の感想】花と薬草の宝庫伊吹山・北尾根

貝塚(陽)

百名山の一つに数えられる「伊吹山」は、高山植物の宝庫として知られ、花の季節になると多くの登山者や観光客が花を楽しみに訪れています。数年前に、バス旅行で頂上迄登りましたが、あまり印象に残っていませんでした。伊吹山のお花畑は花の数も多く綺麗だと聞き、伊吹山北尾根登山に参加しました。



みなと観光バスを利用して、鹿島神社駐車場を出発、名神高速道路を經由し伊吹山ドライブウェイに入ると、沿道よりタニウツギや、ふじの花に出迎えられて山頂の駐車場に着きました。ストレッチを行った後に西遊歩道より登り始めると、ニチリンソウ、イブキタンポポ、スマレ、ゲンナイフウロ（咲き始め）、ボタンネコノメなど数多くの高山植物の花が咲いていましたが、まだ少し早かった様でした。山頂で売られているソフトクリームが美味しいと聞いていたので、話の種にと買おうと、売店の主人より、「伊吹山頂登頂証明証」平成18年6月4日11時25分と記入された証明書を頂いたので、記念に残しています。



山頂に立つ「日本武尊像」の前で集合記念写真を撮った後、早々と昼食をする事になり、展望の良い場所へ移動、眼下は少し霞んでいましたが、素晴らしい景色を堪能しながら昼食を済ませる事が出来ました。

帰りは、中央遊歩道コースを下って伊吹山ドライブウェイを通り、北尾根コースに向かいましたが、その途中に、ドライブウェイのガードレールの外で、望遠レンズ付のカメラでイヌワシの飛来を待っている様子が見受けられ、まだまだ自然が残されている山だなあと感じました。ドライブウェイの8合目付近から登山道を下って行き静馬ヶ原へ、燕平から尾根道を通り御前峰へアップダウンを繰り返しながら進んできました。登山道はガレ場で木の根っこも多く、足元がふらふらいたり、けつまずいたり、滑ったり、引っ掛けたりで気をとられ花を見る余裕がありませんでしたが、ニリンソウ、ヒメウツギ、グンナイフウロ、コゴメソウ、マムシグサ、ナルコユリ（まだ蕾でしたが）、ハウチャクソウ、フタリシズカなどの花と出合える事が出来ました。北尾根コースは下って行く方向だから歩きやすいと聞いていましたが、なんのその、アップダウンの繰り返して大禿山に着き、更に下って尾根道を通り登り終えると国見岳の頂上に到着、休憩後登山道を下り急坂のロープ場へ、此处を通り抜けて尾根道を歩いて行くと、やっと国見峠に辿り着き早々に迎えのバスに乗り込みました。



帰途、車窓より沿道に咲くタニウツギやトチ、キリの花に見送られ伊吹山を後にしました。バスの中でそれぞれ一言感想を、と云われ、しんどい山、足場も悪く大変疲れましたと言いましたが、それでも数々の珍しい高山植物に出会え、しかも、皆さんとの楽しい会話が出来た事は、有意義な一日でありました。

【山行の感想】 坂本(和)

3年ほど前の9月頃にスキー場からのぼった時は熱くて大変だった。今度は頂上駐車場からだったので、頂上まで大変楽々だった。伊吹山は昔から薬草の多い山として古くから有名で、又美しいお花畑となっており、イブキと名のつく植物が21～23種もあるそうだ。

夏の終りに行った時はサラシナショウマ、トリカブト、白と紫色ガスっていたので幻想的で、素晴らしかった。

今頃はどんな花が見られるかと頂上のお花畑へと左右を見ながら歩く。

(ウマノアシガタ、ショウジョウソコ、イブキハタザオ、イブキガラシ、エゾノタテツボスミレ、サンカヨウ、ニリンソウ、イチリンソウ、イブキタンポポ、ヒメウツギ、グンナイフウロ、等々、もっと花が沢山見られると思っていたが、意外と少なかったのが残念。



これから夏にかけて此处が花いっぱいになるのかと想像、花を探しながら、国見峠へと向かった。